

研究種目：若手研究（B）
研究期間：2007～2010
課題番号：19791686
研究課題名（和文）妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保を目指したストレス評価指標の開発
研究課題名（英文）The stress evaluation index for the safety and pleasure of pregnancy and childbirth
研究代表者
関塚 真美（SEKIZUKA NAOMI）
金沢大学・保健学系・助教
研究者番号：60334786

研究代表者の専門分野：助産学
科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学
キーワード：妊産褥婦，ストレス，安全性，快適性，指標

1. 研究計画の概要

ストレスと妊産婦の健康の関連についてはいくつかの先行研究があるが、そもそもストレスとは主観的なものであり、その反応には個人差があるため客観的評価が重視されている。また、ストレスが妊産婦の生体に及ぼすメカニズムの詳細については不明な点も多い。そこで本研究はストレスが妊産褥婦に及ぼす影響についてさらに追跡するとともに、妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保を目指し、「妊産婦のストレスを適切に評価できる指標の開発」及び「ストレスが高い女性に対するケア指針の考案」を目指す。

2. 研究の進捗状況

今年度までの成果として「妊産婦のストレスを適切に評価できる指標の開発」について主に以下2点の研究成果を得た。

1) 妊婦のストレス状態と妊娠期・産後における精神的健康の関連

妊娠前半期・妊娠後半期・産後に Sense of Coherence 日本語版（以下 SOC）を含んだ質問紙調査と、ストレス状態を客観的に評価する指標として血清中分泌型免疫グロブリン A（以下 s-IgA）を測定した。その結果、妊娠前半期の SOC 低値群や s-IgA 低値群では、それぞれ高値群と比較してうつ得点が高かった（ $p<0.01$, $p<0.05$ ）。また、産後 1 か月の Edinburgh Postnatal Depression Scale（EPDS）得点に影響する因子として、妊娠前半期の SOC が抽出され、SOC が低いことと産後うつの関連が示唆された。

2) 妊婦のストレス状態と妊娠経過の関連

妊娠前半期、妊娠後半期に SOC を含んだ質問紙調査と s-IgA の測定を行い、妊婦の年

齢・出産歴・喫煙状況・過去の流早産の既往、妊娠前半期のストレス認知度、SOC、s-IgA と妊娠後半期の妊娠経過（切迫早産）との関連を多変量解析で分析した。その結果、切迫早産を予測する因子として、妊娠前半期の SOC や s-IgA が低いことが抽出された。従って、妊娠前半期の SOC や s-IgA がその後の妊娠経過を予測する因子となり得ることが示唆された。

以上の研究成果より、妊娠前半期の SOC や s-IgA と妊産婦の健康の関連が明らかになったことから、SOC や s-IgA は妊産婦の健康に影響するストレスを妊娠早期に適切に評価できる指標と示唆された。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

（理由）

研究実施の遂行状況は、おおむね当初の計画通りである。また3年間で得られた研究成果については、以下に記載のとおり、随時学会で発表しており、掲載論文もあるため。

4. 今後の研究の推進方策

今年度までの研究成果で、s-IgA による評価は客観的評価が可能であるという利点に反して、臨床における実用性という面では課題が残された。今後（来年度）は SOC によるストレス評価の臨床での実用性を明らかにすることを課題とし、「ストレスが高い女性に対するケア指針の考案」について成果をまとめる予定である。

5. 代表的な研究成果
(研究代表者, 研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

1. Sekizuka, N., Sakai, A., Nakamura, H., (他7名, 1番目), Association between the incidence of premature rupture of membranes in pregnant women and seismic intensity of the Noto Peninsula earthquake, Environ Health Prev Med., (2010), in press, 査読有
2. Sekizuka, N., Sakai, A., Nakamura, H., (他3名, 1番目), Low serum secretory immunoglobulin A level and sense of coherence score at an early gestational stage as indicators for subsequent threatened premature birth, Environ Health Prev Med., 14 (2009), 276-283, 査読有

[学会発表](計13件)

1. 関塚真美, 中村裕之(他4名, 1番目), 妊娠前半期におけるストレス状態とうつ傾向の関連, 第37回日本女性心身医学会学術集会, 2008年7月20日, 東京女子医科大学弥生記念講堂(東京都)
2. Sekizuka, N., Sakai, A., Early prediction of postpartum depression using Sense of Coherence, International Confederation of Midwives 28th Triennial Congress, 2008. 6. 2, Scottish Exhibition Conference Centre (Scotland)

[図書](計1件)

1. 関塚真美, 坂井明美, 妊婦の首尾一貫感覚とストレス対処能力, 助産雑誌, 61 (11), 2007, 966-969